

濃尾平野における象鼻山古墳群からの眺望範囲

The Visible Area from Zobisan No.3 Tumuli in Nohbi Plain

宇野 隆夫

Takao UNO

1. はじめに

日本の主要古墳(前方後円墳・後方墳、西暦3世紀～6世紀)の位置情報を取得して主要な地形单元ごとにGISを用いた各種の空間分析を実施して、防災に役立てるための研究をおこなった。ここではその中でも最も広い眺望範囲をもち、海陸の交通へのアクセスがよいと考えられた岐阜県養老郡養老町象鼻山古墳群の事例について報告する。

2. 遺跡の立地地形

象鼻山古墳群は、濃尾平野の東にある南宮山の南に派生した象鼻山の山頂周辺に分布している(図1・2、養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室1997～1999、宇野1998)。この中でも象鼻山1・3号墳は最も規模が大きく、象鼻山1号墳は西暦3世紀中頃と推定する前方後方墳であり、象鼻山3号墳はそれより古く西暦3世紀初め前後のものである。なお象鼻山3号墳は従来、円墳と推定されていたが、上円下方壇という非常に珍しい施設である可能性のあることが養老町教育委員会の調査によって判明してきている。

3. 遺跡周辺への眺望範囲

象鼻山山頂でも標高が最も高い位置(標高120m)にある象鼻山1号墳と象鼻山3号墳からの眺望範囲を示した(図1・2)。象鼻山1号墳・3号墳派至近の距離にあるが周辺への眺望には大きな違いがあり、3号墳派1号墳よりも良好な眺望を得ることができた。

象鼻山古墳群の西方には西日本と東日本の境をなす関ヶ原があり、南宮山・象鼻山の北と南にある帯状の平野は、関ヶ原に連なる陸上交通路をなしていたと考えられる。象鼻山古墳群中でも最古の3号墳空は、この南の交通路をよく視認できた。なお古代の東山道は南宮山・象鼻山の北を通るが、伊勢湾から近畿へのアクセスは南の街道がより近距離で結ぶことができたと考えられる。

4. 濃尾平野への眺望範囲

象鼻山1号墳・3号墳殻東方の濃尾平野への眺望範囲には大きな違いがなく、平野部と伊勢湾を広くカバーしている(図3・4)。

図3・4には濃尾平野の主要古墳の位置も表示しているがそのほとんどが、象鼻山古墳群からの眺望範囲の中にあつた。象鼻山1・3号墳派古墳時代の初めの頃のものであり、濃尾平野の多くの古墳から象鼻山古墳群が視認できたとする方が適切であろう。

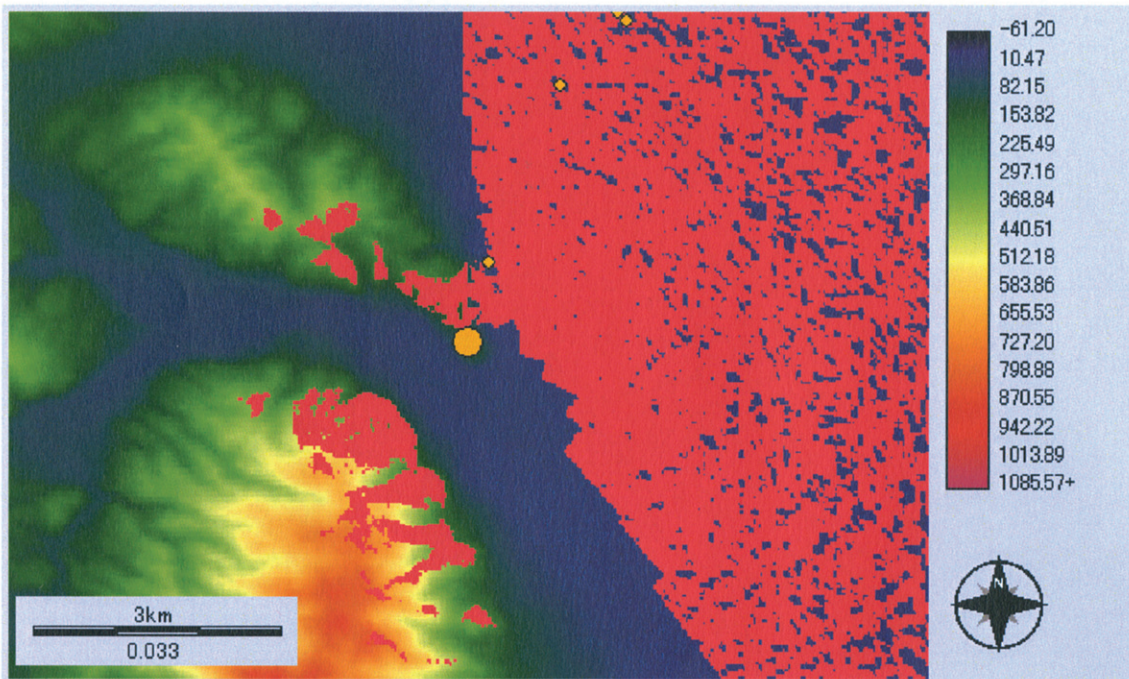


図1 象鼻山1号墳から周辺への眺望範囲

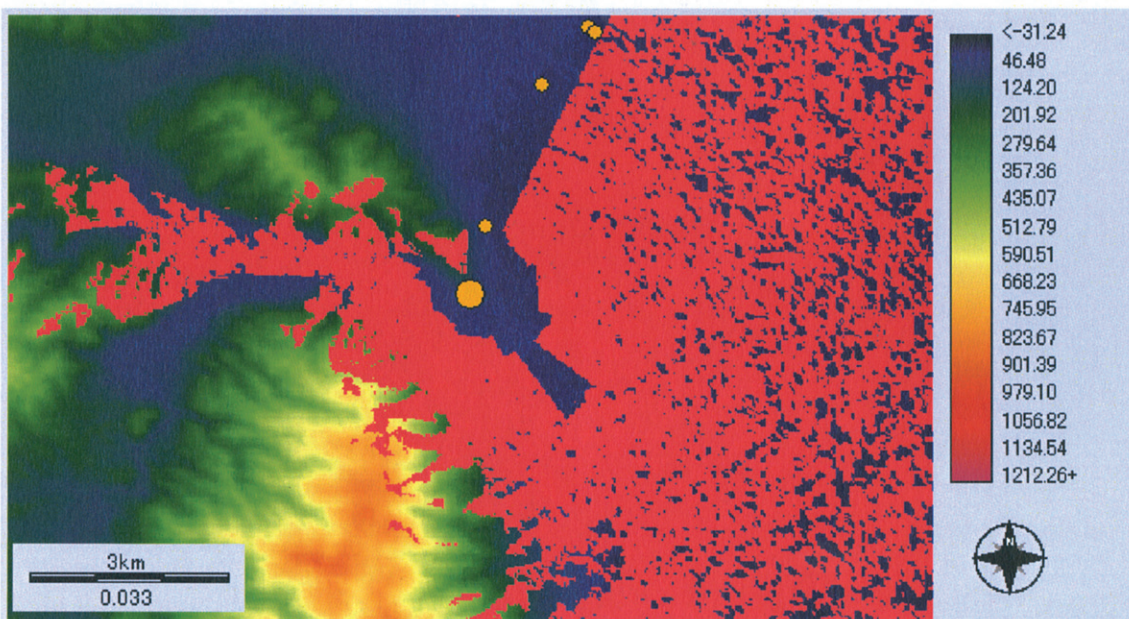


図2 象鼻山3号墳から周辺への眺望範囲

岐阜県・愛知県的主要古墳からの眺望範囲の分析をおこなっているが、象鼻山1・3号墳煮匹敵する広い眺望範囲をもつ例は、現在のところ他ではみつかっていない。

距離が遠く離れると地球表面の曲率も影響して眺望範囲にあるすべての地区を視認できたとは言えないが、象鼻山1・2号墳派、濃尾平野と伊勢湾のほとんどに対して、視認の障害になる地形がない場所を選んで古墳を築造したものと考えられる。

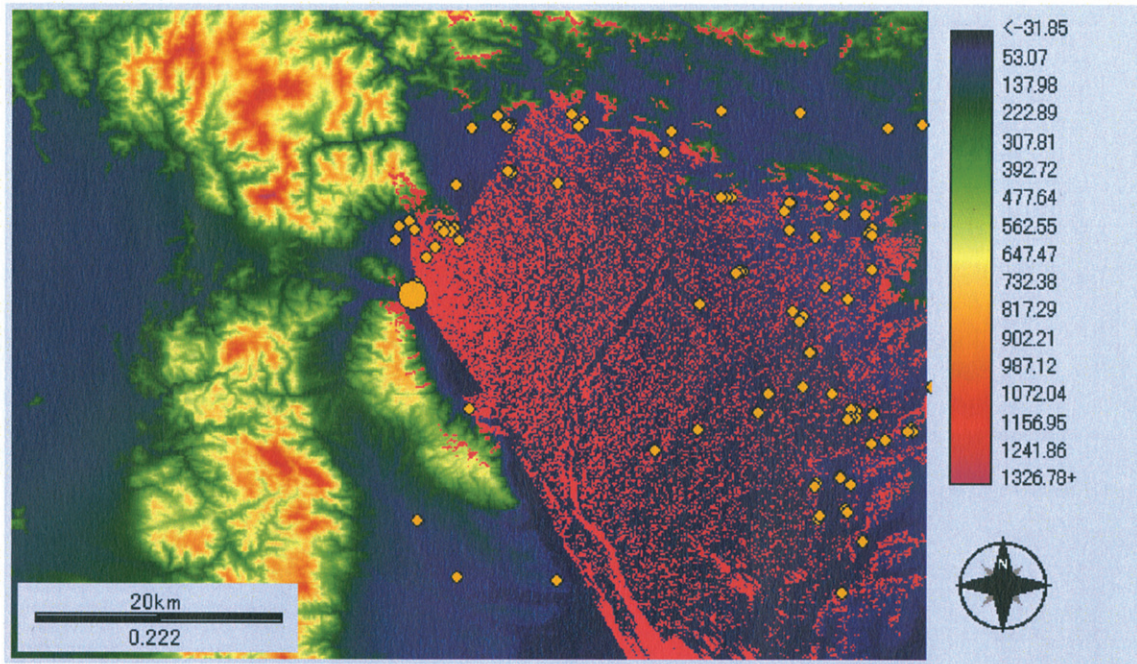


図3 象鼻山1号墳から濃尾平野への眺望範囲と古墳分布

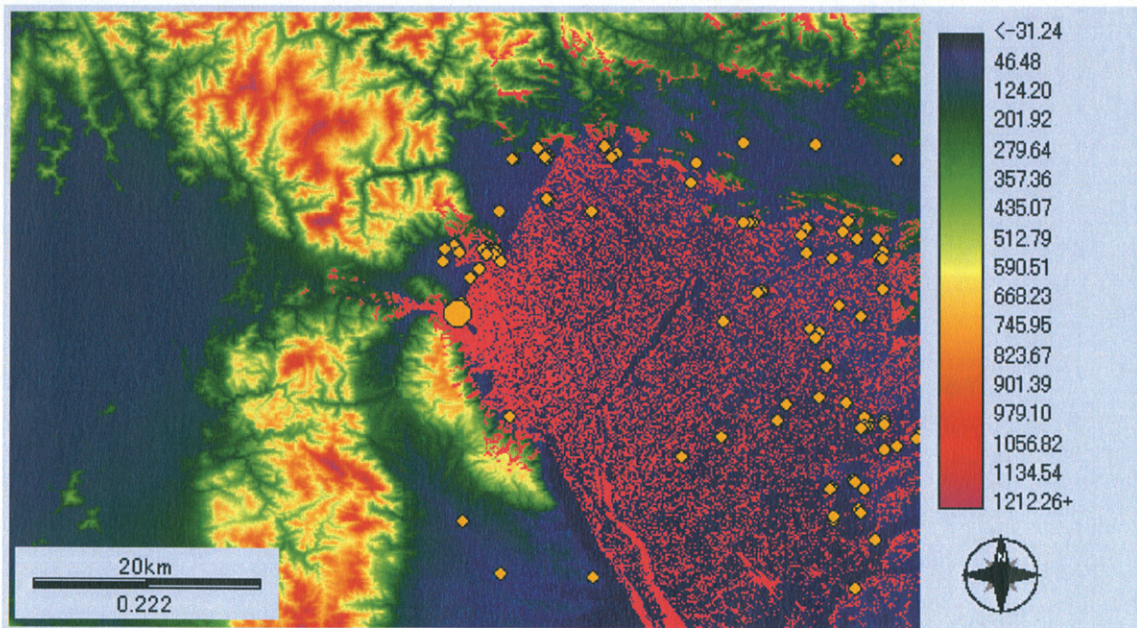


図4 象鼻山3号墳から濃尾平野への眺望範囲と古墳分布

象鼻山古墳群からは港の存在が予想される伊勢湾沿岸への眺望がよく、濃尾平野北部の有力古墳群である赤坂古墳群などとも視認関係があった。赤坂古墳群からは西の関ヶ原に至る東山道に対する眺望が良好である。これらのことから、象鼻山古墳群の成立は、関ヶ原・濃尾平野の水陸の交通網を広くおおう視認ネットワークを形成する最初の営みであったと考えられる。

5. 結び

以上、古墳時代の初頭に造営が始まった象鼻山古墳群は、関ヶ原—濃尾平野—伊勢湾を広く眺望できる位置にあり、その視認ネットワークは東西日本を結ぶ当地域の水陸の交通網を含み込んでいたと考えられた。

このような現象は濃尾平野だけではなく、東北から九州に至る各地において、その初期に造営された古墳は、その地域において最も広い眺望範囲を得られる場所にあり、広範な視認ネットワークを形成していったと考えられる。

このような各地域の鍵となる古墳について維持管理・防災の仕組みを整えるなら、それは古墳や文化財にとどまらず、現代社会の防災にも少なからず役立つであろうと提言しておきたい。

参考文献

宇野隆夫:1998「象鼻山1号古墳」『土器・墓が語る—美濃の独自性 弥生から古墳へ—』第6回
東海考古学フォーラム

宇野隆夫編著:2006『考古学 GIS—先端技術で歴史空間を読む—』NTT 出版

養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室:1997『象鼻山1号古墳—第1次発掘調査の成果—』

養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室:1998『象鼻山1号古墳—第2次発掘調査の成果—』

養老町教育委員会・富山大学人文学部考古学研究室:1999『象鼻山1号古墳—第3次発掘調査の成果—』